

作成日：2020年5月8日

わが故郷の記録「金浦の歩み」の連載について（お知らせ）

金浦区自治会の文化的事業の一環として、「記憶を記録に留め後世に継ぐ」ことを目標に掲げ平成30年5月に見出しの冊子を発行しました。区民の絶大なる情報・資料提供、聴き取り等、3ヶ年の月日を費やしようやく完成させることが出来ました。区民にとっても大きな喜びであったことは言うまでもありません。

同年6月には神戸大学大学院人文学研究科より講師を迎え、区公民館で発刊記念講演会を開催しました。先人の歩みを後世に伝えることの意義は大きく、ふるさと再発見に関わって歴史的資料を残す貴重な営みだとの評価を頂戴することができました。しかし一方では、この度の発刊事業はゴールではなく通過点であるとの課題も指摘して戴きました

発刊について新聞に載ったことの反響は小さくなく、冊子編集の取り組みを発表する機会に恵まれました。（神戸大学の歴史文化をめぐる地域連携協議会主催の研修会・放光院で実施した福知山史談会の現地研修・隔月刊誌「神戸と歴史」への寄稿、朝来市文化協会総会後の記念講話・退職公務員団体の研修会・行政主催の生涯学習講座「みどりの笑楽校：歴史ってこんなに楽しい」等に出掛けて話をさせて戴きました。

「金浦の歩み」は、既に24頁分をHPに掲載しておりますが、全体的には約181頁（53項目）のうちの一部に過ぎません。24頁分は古代から江戸時代の範疇であり、歴史的な経緯からみると紙面的にも僅かであり新たな調査・まとめがまだまだ十分ではありません。これは、前述の課題として指摘されたところでもありますので、次なる冊子作成に繋がればいいのですが...

この冊子の大きな特徴は、扱った時代が平成時代までということです。特に多くの方が生きてきた昭和時代につきましては、資料も多く、記憶も辿りやすいということも手伝って多くの誌面を割いています。その辺りの意図につきましては、連載を続け得る中で明らかになってくるのではないかと思います。

HP「金浦の歩み」のサイトには、冊子「金浦の歩み」の25頁以降の内容をできる限りご紹介したいと思います。時系列から外れたり、個人情報で抽象的な表現になったり、一小集落の平凡な歩みだったりもするでしょうが、「持続可能な村づくりの視点」「村の活性化どうあるべき」等を命題としていますので、何かを感じて戴きましたら幸いです。

まず今回は、冊子の目次を掲載します。引き続きのお付き合いよろしくお願いたします。